

八重山で共に暮らす島人を撮影したシリーズ。
暮らしの中から見つめる被写体に共感と敬意を
込めて撮影している。



石垣島出身の^{かてかわきよし}嘉手川清史さんは、建物の防水塗装業に従事しつつ、お母さんと小さな餅製造所を営んでいる。

創業60年になる餅屋を母の代で終わらせてしまうわけにはいかないと、2017年に清史さんは防水塗装業の仕事を続けながら後を継ぐことを決意した。

餅屋の仕事は、早朝3時という真っ暗な時間帯から始まる。清史さんとお母さんは、黙々と作業をこなし、その動きには微塵の迷いも無駄もなく全てが流れるように進んでいく。

清史さんは、朝の仕事を終えると、11時には餅屋を後にし会社へと向かう。建物の防水塗装業という仕事から、従業員と共に夏は炎天下、冬は北風の中、現場で仕事をこなす。

清史さんの体力と忍耐力、そして持久力は並外れていて、もはや何か特別なものが彼の心体に宿っているのではないかと思わずにはいられず、継続するために何をしているのか尋ねた。

「走っています。僕にとっての『静』の時間は、走っている時です。だいたい毎月何かしらのマラソン大会に出場しています。近々初めての100kmのマラソンにチャレンジするので、最近はそれに向けて調整しています」

私にとって走ることは「動」であり、「静」ではない。しかし清史さんにとっては走ることが「静」で、ストレスを発散したり、頭をクリアにしたり、考えをまとめたりするための時間であり、行為なのだ。

今後は、古くなった餅製造所を新しくすること、そして自分の会社を八重山にはなくてはならない防水塗装会社にすることが目標だと話してくれた。

何かにつけ二の足を踏んでしまう私は、清史さんのような何事にも躊躇なく立ち向かっていく意志の強さと100パーセント今を生きているような迷いのない姿に憧れを感じる。

清史さんのスカッとしたエネルギーを少しでも分けてもらいたく握手を求めた。少し冷たい手は豪快で力強いイメージとは裏腹に、繊細で謙虚なエネルギーをたたえていた。

水野暁子 みずのあきこ

1973年千葉県に生まれる。1986年に家族とアメリカへ渡る。1996年 School of Visual Arts (New York) を卒業。1999年に竹富島に移住。現在子育てをしながら撮影活動中。

- 島人へのインタビューをまとめて紹介しているYouTubeチャンネル「八重山ライブラリー」も。
- フォトエッセイ本『八重山、光と風の葉をはさんで』。発注は、右QRコードホームページのContactから。



Akiko Mizuno Photography



八重山ライブラリー